電制機関紙

とらい

平成 26 年　年始号

世界遺産：「富士山」上空からの撮影

発行所
株式会社　電 制
広報室

〒 067-0051
江別市工栄町 8 番地の 13
TEL(011)380-2101
FAX(011)380-2103
http://www.dencom.co.jp

DENCOM
DENSEI COMMUNICATION Inc.

年　頭　の　ご　挨　拶

代表取締役　田上　寛

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、第 2 次安倍内閣発足早々株価上昇したものの、そのまま経済回復への道を辿れるのか、アベノミクス効果の真価が問われるのはこれからと云われておりましたが、何とか昨年 1 年を乗り越えました。2020 年のオリンピック開催地が東京に決まったことも経済活性化に繋がると思われます。

ただ、今年は消費税率 8％実施の年であり、税率アップが国内経済にどのように影響するのか、また経済活性化に影響を与えている原発停止がいつ運転に入れるのかは気になるところです。私たち企業としては自公政権の進める成長戦略に頼り過ぎることなく、景気に左右されない企業強化に努めなければなりません。

昨年の電制を振り返って

電力事業分野での活動が一つのコアとなっている当社としては、厳しい市場環境を実感しながらの事業運営でした。一方、福祉事業分野では、発話障害者向け新コミュニケーションツールとして開発した音声生成アプリ『商品名：ゆびで話そう』が北海道新技術・新製品開発賞ものづくり部門で優秀賞を受賞し、一昨年に受賞した非接触式油検出センサー『商品名：エスリオワン』に続いての 2 年連続での受賞となりました。受賞した『ゆびで話そう』は、同アプリを iPhone や iPad などの通信端末装置にダウンロードし、通信端末装置の発音表示箇所をなぞるだけで音声を発しての会話が出来る世界初のコミュニケーションツールです。当社では既に、声を失った方のための発声補助装置として電気式人工喉頭『商品名:ユアトーン』を全国の方にご利用頂いておりますが、一方で、病気や怪我などの理由で、口や舌を自分の意思で自由に動かせない場合には電気式人工喉頭の利用が難しく、声音での会話を諦めている方も多いということでした。そこで開発したのが『ゆびで話そう』です。この商品に優秀賞という光を当てて頂いたことは何よりも嬉しく、忘れがたい一年となりました。

本年の重点方針をキーワードに

電制は現在、組織の活性化と製品の独創性に重点を置き企業構築しておりますが、まだまだ私の示す会社のかたちには成り得ておりません。その原因の多くは“木を見て森を見ず”であり、社員個々が期日迫る目の前の個別業務に集中するあまり、会社全体としての針路に目配りする意識が損なわれる点にあります。2014 年という新たな年を迎えた今、社員の皆さんの成すべき課題は、日々の個別業務遂行に加え、会社が掲げている今期重点方針の再認識であり､これら二つのバランスを考えた活動です。

本年の重点方針を簡潔にキーワードにすると『活気と独創性の DENCOM』となります。今年 1 年、電制はこのキーワードで一糸乱れず行動します。

結びに

本紙では電制の社員の皆さんへのメッセージが主の新年ご挨拶となりましたが、当社のお客様はじめ多くのご支援頂いている皆様には心より感謝し、今一度、お礼を申し上げます。

本年が皆さんとご家族にとって実り多く健康で幸せな一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶と致します。

iOS 専用音声生成アプリ『ゆびで話そう』が 平成 25 年度北海道新技術・新製品開発賞の優秀賞を受賞

当社の iOS 専用音声生成アプリ『ゆびで話そう』が、平成 25 年度北海道新技術・新製品開発賞の優秀賞を受賞致しました。画面上をゆびでなぞるという簡単な操作で、リアルタイムで音声が生成できるアプリケーションとしての新規性や独創性などに高い評価を頂きました。

ⓒ 株式会社　電　制

N2 形キュービクル　初号器を昨年 9 月に納入完了

現在道外メーカーにて製作・納入している北海道電力株式会社様向けの変電機器の中で、配電用変電所向けの N2 形キュービクルの道内メーカーへの製造移転の機会を北海道電力株式会社様より頂き、社内にて取り組んでまいりました。

収納するしゃ断器等は協業メーカーにご協力を頂く一方で、北海道電力株式会社様からのご意見・ご要望を踏まえ、安全性、操作性などに配慮した設計・製造を進めてまいりました。試作器の製作・評価を含めて足かけ 3 年の期間を費やしましたが、昨年 8 月の御立会検査、9 月の形式審査合格を経て、製品初号器を清水川変電所に納入いたしました。【写真右】

N2 形キュービクルを当社の変電機器のラインアップに加えることができ、配電用変電所向け屋内機器のほとんどを当社の製品群として取りそろえることができましたが、今後さらにお客様に「感動」頂ける製品作りに取り組んでまいります。

最後に、本キュービクル製品化に際し多方面にわたりご指導・ご協力を頂いた北海道電力株式会社様をはじめとする関係者各位に深く御礼申し上げます。

【写真】N2 形キュービクル外観
（一番奥は同時期納入の N 形配電盤）

七飯発電所

187kV屋外配開改良工事で感謝状を頂く

平成 22 年から 4 年にわたる七飯発電所 187kV 屋外配開改良工事を、東日本大震災による停電計画の大幅な見直しの中、緻密な作業段取りにより回線切替を確実に行い無事故・無災害で竣工させたとして、昨年 11 月、北海道電力株式会社函館水力センター所長の上野昌裕様より感謝状を頂きました。

京極発電所土木電気設備工事と非接触式油検出センサー「S-LIO1」の納入

今年度、京極発電所土木電気設備工事（H25 年度分）を北海道電力株式会社様より受注し、昨年 11 月のダム湛水時までに現場作業はほぼ終了いたしました。現在は本年 1 月末竣工に向けて提出図書類のまとめを残すのみとなっています。

本工事は、平成 23 年度の土木電気設備設計業務、平成 24 年度分工事、そして今年度の平成 25 年度分工事と三期に渡っての工事で、内容的にはダム放流警報装置、発電放流警報装置、CDT 装置、水位変換装置、所内電源キュービクル、各所分電盤、UPS 装置他の設計・製作・据付工事・試験から各所装置間のケーブル布設・接続工事、配管路工事と、当社にとっていまだかつて経験の無い規模の工事となりました。

一方、現場では、予想を超える豪雪、岩盤地質、大規模工事である故の入所他社様との調整業務等により、思う様に工事が捗らない期間もありましたが、徐々に現場の状況に慣れるに従って工事体制の強化等に取り組み、事故もなく終了いたしまいた。

今回は当社の非接触式油検出センサー「S-LIO1」を、排水ピット 1、排水ピット 2、屋外排水槽の 3 か所に納入できたことも大きな実績となりました。

本工事も残すところあとわずかですが、当社としましては最後の最後まで気を緩めずに竣工を迎えられる様取り組んでまいります。

最後に、今回お世話になりました京極水力発電所建設所電気第二課様、電気第一課様、各協力会社様各位に深く御礼申し上げます。

【写真】京極ダムの下池全景

【写真】排水ピット内への S-LIO1 設置

新標準仕様のダム管理装置　納入間近

この度、北海道電力株式会社様より沙流川・鵡川水系ダム管理装置更新工事を受注致しました。

本装置は、平成 24 年 9 月に改定された新標準仕様に則った第一号のダム管理装置です。大きな特徴として、サーバーと監視操作卓、ならびに直接制御盤や周辺装置とのインターフェースに FL-net を採用する事により、ネットワーク上のデータの衝突によるパフォーマンスの低下が発生せず、応答時間が保証されたリアルタイム伝送が可能となります。また異なる機種間・異なるメーカーの機器接続が容易となるため、機能拡張時に従来方式と比較しコスト低減が図れます。

コンピュータ系主要装置は、二重化機能をハードウェア部品の複数搭載により実現した FT サーバーを使用しています。これにより二重化専用ソフトウェアが必要なくなりコストダウンが図られ、ハードウェア障害時においては、サーバー機 2 台の方式と比較して切替時間が必要なくなり、耐障害性が大幅に向上しました。

現在、出荷に向けて、安定性・操作性・レスポンス等、お客様に使い勝手が良く、より安心してお使い頂けるシステムにすべく、工場内での最終調整をチーム一丸となって実施しております。

【写真】工場内最終調整

第 27 回　北海道技術・ビジネス交流会

今回は、小間数を 2 小間に増やし、オープンな雰囲気の中、電力分野製品のパネル展示を中心に、当社ブランド製品である「ゆびで話そう」、「ユアトーンⅡ・UB」、「SB テスターⅡ」を実機展示いたしました。

ご来場頂いた様々な業種の方々に当社を知ってもらう良い機会となりました。

編集後記

ここ 2 年ほど、とらいの編集から退いていましたが、諸般の事情により今回の編集を任されました。私自身ブランクを感じさせないような出来栄えにしたつもりですが、いかがなものでしょうか…。

編集担当（S.O）